

日本現代中国学会関東部会 2021 年度第 2 回オンライン定例研究会

「コロナ下の文学とネット空間における表現——方方『武漢日記』を題材として」

【日 時】7月17日（土）研究会 14：30～17：00／懇親会 17：15～19：00（予定）

【開催方法】オンライン（Zoom）、Zoom ID は会員限定でメールにてご案内いたします。

【概 要】2020年1月23日、湖北省の武漢はロックダウンされた。今日なお世界各地で流行している新型コロナウイルスが最初に発見された同地では、またたく間に感染者と死者が増え、感染拡大防止のため人々の移動の自由は76日間にわたり制限された。都市封鎖の間、市民としての日々の生活を記録し、また行政側の統制に対する批判もブログに綴ったのは、武漢を描き続けてきた作家方方であった。

ネット上で賛否両論を巻き起こしたそのブログは「武漢日記」と名付けて海外で翻訳・刊行されると、中国国内でさらなる論争を呼び、今日に至る。本研究会では、この話題の書『武漢日記：封鎖下60日の魂の記録』（飯塚容・渡辺新一訳、河出書房新社、2020年）を題材とし、ソーシャルワーカー郭晶がやはりブログに発表した『武漢封城日記』（稲畑耕一郎訳、潮出版社、2020年）などと比較しながら、今日、中国の知識人および文学が直面している問題、またネット社会における表現について二人の報告者に論じていただく。

【プログラム】

14：30～14：40 開催主旨の説明と報告者・コメンテーターの紹介

14：40～15：20 第一報告 河村昌子（明海大学）

「方方『武漢日記』を読む」（仮題）

15：20～15：30 休憩

15：30～16：10 第二報告 楊 駿驍（早稲田大学非常勤講師）

「SNS時代の「文学」とコミュニケーション——方方『武漢日記』を例に」（仮題）

16：10～16：25 コメント 伊藤徳也（東京大学）

16：25～17：00 質疑応答

※ 司会：中村みどり（早稲田大学）

〈企画：関東部会 中村みどり、伊藤徳也、坂元ひろ子〉